

会長挨拶

桜花会会長 和田雄二

みなさん、こんにちは！！！！5月25日のホームカミングデーの日の総会で会長を拝命しました。わたしがこの原稿を書いているのは台風7号が関東を襲った猛暑の8月の中旬です。わたしたちが母校を「東工大」と呼ぶのも、残り1か月余りとなりました。この原稿が印刷されて桜花会誌が配布されるころには、正式に東京科学大学がスタートしています。桜花会の会員のみなさんは、東工大が東京科学大学という名前になったときに、旧東工大の同窓会はどのような形になるのがよいとお考えでしょうか。このことは、実際、大学の執行部周りはもちろんのこと、全学の同窓会組織である蔵前工業会でも、そしてそれぞれの学科単位で運営してきた東工大内のいろいろな分野の同窓会で相談があったと聞いています。



桜花会は、わたしが化学工学科の学生であったころに、当時の森川陽先生、小野嘉夫先生らが、立上げに走り回っておられたようなおぼろげな記憶があります（もし、勘違いでしたら、すみません）。学生だったわたしは、森川先生から桜花会の立上げパーティーで配ったという四角い榊の残りをいただき、研究室での飲み会で、桐の香りのするお酒を飲んだ記憶があるのです。この記憶が正しければ、桜花会立上げは45年前くらい。その立上げのころは、わたしは学生だったわけですが、現在の応化系関連の学科としては、大化学工学科（大化工と略称）と高分子工学科の2つだったと記憶しています。桜花会は、この大化工の組織から立ち上がったわけです。その後、化学工学科と応用化学科に分離したり、すずかけ台の総合理工学研究科の化学関連の専攻の先生方との関連もあつたりで、実際には、旧応用化学専攻だけでなく以前のルーツにもとづく工学部関連の化学関連系の分野のメンバー研究室が卒業生を輩出し、桜花会に迎えている形となっています。

さて、同窓会のこれからのお話です。昨年から、現物質理工学院応化系の3つの同窓会、すなわち、桜花会、化工会、れんさ会を統合する案が、物質理工学院長の関口先生を中心にして議論されてきました。先のホームカミングデー(5/25)では、3同窓会の会長、役員、会員が統合案を進める合意形成の会を開催し、3同窓会の会長が、統合同窓会の名前を決め、運営方法、会員資格などを相談してゆき、来年には発足の会を開催しようという流れができあがりま

した。わたしは、その準備会に桜花会会長として参画し、組織づくり、運営と活動の形づくりをお手伝いすることになっています。実際には、3つの同窓会は、それぞれの運営方法は独自性が強いので、それぞれの分科会的な活動を認めつつ、統合してゆく形を模索することになります。独自性という言葉を使いましたが、活動が在校生側を向いているのか、それとも社会人側なのか、会員の連絡先管理がどこまで把握できているか、など、それぞれの同窓会組織で活動方針や会員管理の方法が異なっています。まずは、それぞれの同窓会の考え方部分は尊重しつつ、統合同窓会の中ではどのように協働作業部分を作るかという議論がしばらくつづくことになると思います。

残りの紙面で2つの内容についてお話します。最初は、やはり統合同窓会をこれからどの方向に向けて、活動方針を作ってゆくかということです。現在の3同窓会の共通の興味と利益ということから考えると、1) 在校生あるいは学業の卒業・修了学生へのアシスト、と2) 卒業した後の社会人会員の交流会としての活動、の2点が大事です。3同窓会の中では、桜花会が最も在校生の支援活動が充実しているということから、関口先生からはその内容の一部は統合同窓会共通の活動をして維持したらどうか、というご意見をいただいています。他の2同窓会では、社会人会員の交流会をしておられることもあり、それぞれの同窓会が行って来た活動から、無理のないところで、3同窓会共通の活動計画を作るのがここ1年間の作業になると思います。

統合同窓会ができるにあたって、3同窓会それぞれは分科会のような形で統合同窓会の中に組み込まれるという形ですが、それぞれ独自の活動を続けることはできますので、しばらく、大きな変更は起こりません。実際、10月28日（工大祭の翌日です）には、毎年行ってきた卒業生との交流会の開催の準備は進めています。ただ、応化フォーカスという東工大側の組織単位は無くなるので、在校生の特に応化に特化したイベントなどは、今年度の3年生を対象とする卒業研究発表時の賞の授与が最後になるかと思っています。

今年の夏では例年以上に猛暑の日々が毎日やってきます。これも、温室効果を原因とする気候変動のためかという思いが強くなります。わたしたち、理工学に関わったものたちにとって、カーボンニュートラル（CN）対策技術は、他人事ではなく、それぞれがご自分のお仕事ではもちろんのこと、広く関連技術のことに興味と責任を感じるのではないかと想像しています。わたしは、統合同窓会の活動の方向性として、CN対策に関連させた方向のものを入れこめると、今回の東京科学大学の新体制への橋渡しになれるかもしれないと思っています。こんなことを考えながら、ノンアルビール片手に休日の夕刻を過ごしています。みなさまには、またお目にかかる日を。。。。。。と楽しみにしております。